

城北川

高殿
1～7丁目
他



工場が立ち並び昭和40年頃の城北運河



現在の城北川(中葦橋から北を見る)

街を流れる一級河川

城北川は、城東区今福2丁目の寝屋川右岸から、都島区友淵町の旧淀川左岸に至る人工の水路である。全長は5.6km。旭区2.2km、城東区2.1km、都島区1.3km。川幅は40m、平均水深は3.5m。

昭和15年(1940)、城北運河は完成した。大阪市内で開削された最後の運河である(臨海部を除く)。それから45年後の昭和60年(1985)、「城北運河」は一級河川「城北川」に指定された。工業製品や原材料を船で運んだ生産運河から、人と生きものがいっしょに暮らす快適河川へ。時代が移り、その役割も変わってきた。

住民のための快適な水空間づくりが始まり、工場の郊外移転や国や大阪府の補助により護岸工事が進められた。城北川は、ふるさとの川・モデル河川に指定され、『うるおいとふれあいのある水辺』に生まれ変わった。水面を眺めながらウォーキングやランニングをする遊歩道、川に隣接した彫刻モニュメント広場、滝の流れと水の音を演出した清流広場などがある。

水とたたかい、水を生かし、水とともに生きてきた大阪。城北川は、旭区未来まちづくりを夢みながら、きょうも微笑んでいる。

城北川遊歩道は、樹木が立ち並ぶ緑道

鶴見緑地公園事務所(旭・城東・鶴見・都島)が管理している。山茶花・楓・寒椿…その数、合わせて820本(1.5m以上の樹木)。葦橋右岸の遊歩道には、樹齢数十年の栴檀や榎の木などの銘木が立っている。旭区民センター横には、ソメイヨシノの桜小公園。香蘭橋から西中宮橋の川岸は、約90本の楓の木(いずれも平成24年当時)。とくに城北川左岸は、緑のトンネルが続いており、格好のウォーキングロードである。



緑のトンネル

城北川のビューポイント



東中宮橋～西中宮橋
「旭区史跡彫刻壁画」

東、西中宮橋の護岸壁面約100メートルに「旭区史跡巡り」として、城北菖蒲園・京街道などの壁面彫刻がある。



東中宮橋右岸の「延命地藏」

東中宮橋とともに「延命地藏尊」が祀られている。



城北川に棲息するアオサギ

蒼鷺以外に、城北川にはカルガモ・キジバト・ムクドリ・ヒヨドリなども棲息しているという。

時 期	城北川の略歴
大正時代 (1912～1926)	この周辺は集落が点在する、のどかな田園地帯が広がっていた。
昭和3年 (1928)	「城北運河」都市計画が決定。大阪東部の開発として、区画整理とともに、寝屋川以北の工場地帯の開発と運河計画が作成された。
昭和10年 (1935)4月	大阪市による開削工事が開始された。
昭和15年 (1940)12月17日	5年8ヶ月の年月を経て、大阪最後の都市部運河「城北運河」全長5.6kmが完成した。
昭和30年代後半 (1960～1964)	河川地域の発展による工場廃水、住民の生活廃水の増加により、最悪の汚濁水質が測定された。
昭和41～45年 (1966～1970)	工業、生活廃水の運河流出をなくす下水道幹線の設置。河川公園、遊歩道が整備された。阪神高速道路守口線の工事が始まり、完成した。
昭和45年 (1970)	大阪湾の潮の干満にあわせて、水門を開閉。水質の悪い寝屋川の水を廃し、水質の比較的良好い大川の水を導入。大幅に水質改善された。
昭和50年 (1975)5月	城北川の左右、両岸に遊歩道が完成した。
昭和60年 (1985)	城北運河から、1級河川「城北川」に指定された。
昭和62年(1987)～バブル経済崩壊～	『ふるさとの川・モデル河川』に位置づけられた。



京街道には碑や道標などが整備されている

京街道は京都へ向かう道の総称で、大坂へは大坂街道、丹波・丹後・但馬へは山陰街道・宮津街道と呼ばれた。

大坂京街道は、大坂と京伏見に壮大な城を築いた豊臣秀吉により文禄3年(1594)から慶長元年(1596)にかけて、淀川左岸の築堤工事がなされ、堤防道(文禄堤)として誕生、大坂と伏見の最短路となった。

江戸幕府は大坂を直轄地とし、京街道を参勤交代の公道としたが、大名などが朝廷と接触することを避けるため、京山科手前の大津宿から追分廻りで伏見宿・淀宿・枚方宿・守口宿の4宿場を東海道に加え五十七次とした。

終点を三条大橋から大坂城の北口の京橋(寝屋川にかかる小橋が京都に通じる橋の意)としたが、その後幕府は天下の台所として経済的地位の高まった大坂を重視し、終点を高麗橋に変更した。

明治政府は道路行政として、高麗橋(現大阪市中心部)に元標(道路起点)を建て、京橋・片町・野田橋・今市・守口・佐太・磯島・渚・三栗・上嶋・樟葉と大阪府下の長さを29kmと定め、京都府八幡市橋本へ入る道路とした。

その後、桂川左岸の鳥羽街道経由を大阪街道とし、京都大阪間の旧国道1号となる(現在はほとんどが府道)。伏見経由は、現在京阪電車本線が走っている。

京街道七曲がり

京橋口より北へ直線に内代の水神社から高殿4丁目南側を通り、蛇行し曲がりくねった道になり、高殿7丁目へ。この付近の道を「七曲がり」と言う。

大正末期頃の京街道の写真は、私がまだ小さい頃、小学校もまだの頃の風景で、京街道の上に立って京の方を見ているところです。手前のうどん屋は私の祖父がやっていた。

朝早く上の方から荷車を牛や馬にひかせて大阪の方へ行くのです。お米の俵や野菜などを沢山積んでかたまって行くのですが、丁度うどん屋が一服するのいいところだったので、沢山止まって休憩していました。

中程に見える屋根は私どもの家でした。そばに大きな榎の木がよく見えています。幕末の頃はこの京街道を沢山の人々が急いで通ったりしていたと言っていました。【大正9年生】



大正末期頃の京街道
今市交差点付近から京都方面を見る。
写真左側に淀川が流れている。



現在の京街道
(今市交差点付近から京都方面を見る)
大正末期頃の写真とほぼ同位置



京街道概要図(広域図)



七曲がり付近の図

京街道の今昔